



**飛躍への挑戦！**  
**高知県産業振興計画**

平成31度高幡地域アクションプランの  
追加、削除、拡充等（予定項目）について

高 幡 地 域 本 部

平成31年2月18日（月）



地域アクションプランの動向

H30年度 238 → H31年度 238

地 域	H30年度 (第3期ver.3)	H31年度 (第3期ver.4)				
	AP数 H30.9.14時点	追 加	削 除	統 合 分 割	小 計	AP数
安 芸	31	1	0	(2→1) ▲ 1	0	31
物部川	28	0	0	0	0	28
高知市	30	0	0	0	0	30
嶺 北	24	0	0	0	0	24
仁淀川	37	0	0	0	0	37
高 幡	41	1	▲ 1	0	0	41
幡 多	47	0	0	0	0	47
合 計	238	2	▲ 1	▲ 1	0	238

# 高幡地域アクションプラン項目（第3期計画ver.3（H30年度）と

No.	平成30年度	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
		11	12	8	9	13
1	地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上	●	●		●	
2	JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化	●	●		●	
3	基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化		●			●
4	中山間地域での持続可能な農林業経営の確立			●	●	
5	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大	●				
6	大野見米のブランド化		●			
7	梶原産キジ肉の生産・販売の拡大			●		
8	肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化			●		
9	つの茶販売戦略				●	
10	みどり市を核とした「地消地産」の推進					●
11	四万十の栗再生プロジェクト					●
12	滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり					●
13	地域資源活用推進と加工場等の整備					●
14	四万十町畑作振興プロジェクト					●
15	四万十のうまい豚プロジェクト					●
16	四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大					●
17	「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進		●			●
18	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進			●	●	
19	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給	●				
20	四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出		●			
21	循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用			●		
22	津野町森林・林業再生プロジェクト				●	
23	美味しい！須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト	●				削除
24	野見湾産養殖カンパチの販路拡大	●				
25	浦ノ内湾産養殖マダいの販路拡大	●				
26	楠木鮮魚一を活用した南地区の活性化	●				
27	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進		●			
28	大正町市場商店街活性化事業		●			
29	中土佐町SEAプロジェクト		●			
30	「中土佐のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト		●			
31	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進			●		
32	津野町地産地消・外商販売戦略				●	
33	四万十町拠点ビジネス体制の強化					●
34	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●
35	須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化	●				
36	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備	●				
37	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進		●			
38	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
39	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～				●	
40	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●
41	四万十町観光交流促進事業					●

# 第3期計画Ver.4 (H31年度) の対比表)

【高幡地域】

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	No.	平成31年度
	●	●		●		1	地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上
	●	●		●		2	JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化
		●			●	3	基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化
			●	●		4	中山間地域での持続可能な農林業経営の確立
	●					5	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大
		●				6	大野見米のブランド化
			●			7	梶原産キジ肉の生産・販売の拡大
			●			8	肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化
				●		9	つの茶販売戦略
					●	10	みどり市を核とした「地消地産」の推進
					●	11	四万十の栗再生プロジェクト
					●	12	滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり
					●	13	地域資源活用推進と加工場等の整備
					●	14	四万十町畑作振興プロジェクト
					●	15	四万十のうまい豚プロジェクト
					●	16	四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大
追加					●	17	地域生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発
		●		●	●	18	「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進
			●	●		19	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シタケの産地化の推進
	●					20	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給
		●				21	四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出
			●			22	循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用
				●		23	津野町森林・林業再生プロジェクト
	●					24	野見湾産養殖カンパチの販路拡大
	●					25	浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大
	●					26	楠木鮮魚一を活用した南地区の活性化
		●				27	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
		●				28	大正町市場商店街活性化事業
		●				29	中土佐町SEAプロジェクト
		●				30	「中土佐のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト
			●			31	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進
拡充				●		32	津野町地産地消・外商販売戦略
					●	33	四万十町拠点ビジネス体制の強化
	●	●	●	●	●	34	高幡地域における広域観光の推進
	●					35	須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化
	●					36	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備
		●				37	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進
			●			38	梶原町の体験型・滞在型観光の推進
				●		39	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～
					●	40	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり
					●	41	四万十町観光交流促進事業

## 高幡地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

### ■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	地域生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発（四万十町） 【実施主体】RELA GREEN VILLAGE(株)	生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を活かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により高知県産生姜の知名度向上を狙う。 また、町内の生姜農家や企業等と連携し、生姜病害の病原菌早期発見方法を確立することにより生姜生産の安定化を目指す。結果として、地域の生姜農家の所得向上や雇用の創出を目指す。

### ■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	No. 23 美味しい！須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト（須崎市） 【実施主体】須崎市、海の駅「須崎の魚」	海の駅「須崎の魚」による事業継続が困難となったこと及び来年度以降の施設の利活用について再検討が必要となったことから削除する。

### ■その他(拡充、統合、分割)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 32 津野町地産地消・外商販売戦略（津野町） 【実施主体】(有)津野町ふるさとセンター (株)満天の星 津野町	【拡充】津野町の豊かな自然環境や地域資源、経営資源を最大限に活用して、農商工や観光など様々な面から、地元企業との連携・協力により、生産・流通・加工・販売・観光を一体的かつ循環的に進める津野町総合商社の設立を目指す。

有望素材シート（31年度）（案）

市町村名	四万十町	素材名	生姜
		関連素材	

現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、生姜を生産する農家でありながら、約50軒の農家から生姜を収集・出荷を行っている経験を活かし、RELA GREEN VILLAGE（株）を平成30年9月に設立。</li> <li>（現在行っている主な取組）</li> <li>平成28年度 ・病害発生時の対処方法の研究、病害発生により早期収穫した生姜の加工商品の開発</li> <li>平成29年度 ・新加工商品（ガリ）の開発</li> <li>・病原菌の早期発見に関して都内大学、土壤消毒メーカー、携帯アプリ開発会社と連携</li> <li>平成30年度 ・病原菌の早期発見に無人航空機（ドローン）導入</li> <li>・上空から病気の発生状況を確認し、早期収穫作業に取り組む（健全な生姜は加工商品へ）</li> <li>・地域観光協会と連携し、体験プログラム実施（生姜の収穫作業）</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の施設では、効率的かつ安定的な生産体制がとれていない</li> <li>・病害発生により早期収穫した生姜（B級品）の活用を図る必要がある</li> <li>・病害発生により安定的な生産が難しい</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業規模の拡大や新規事業（体験プログラム等）の実施が可能な施設整備</li> <li>・病害発生により早期収穫した生姜（町内産）を自社で受入・加工、商品開発と販促活動の実施</li> <li>・町内の生姜農家、大学、企業と連携した最新技術の活用による病原菌早期発見方法の確立</li> </ul> <p>結果として、製造現場の雇用の創出や生姜農家の所得向上を目指す。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取組（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取組（案）

項目	取組名	地域生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発
	関係市町村名	四万十町

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を活かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業（旅行会社と連携した体験プログラム）の実施により高知県産生姜の知名度向上を狙う。</li> <li>また、町内の生姜農家や企業等と連携し、生姜病害の病原菌早期発見方法を確立することにより生姜生産の安定化を目指す。結果として、地域の生姜農家の所得向上や雇用の創出を目指す。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設整備「冷蔵庫」：原料の保管・製造品の保存冷蔵庫の整備により原料受入に対する安定した体制を整備する。 「洗浄場」：原料受入時による洗浄作業の効率化を図り、受入時による原料品質低下を防ぐ。 「加工場」：加工場の整備により製造品質の向上、生姜加工体験プログラムの実施を可能とする。</li> <li>2. 商品開発・販売促進：B級品を加工し、県内向けと県外向けの商品をそれぞれ開発し、販促活動を行う。</li> <li>3. 病害対策：農家、企業等と連携し、アプリや無人航空機（ドローン）による圃場の新しい管理方法を開発する。</li> </ol>
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業主体等	<p>【事業主体】 RELA GREEN VILLAGE（株）</p> <p>【関係機関】 松葉川流域の若手生産農家、その他生姜農家、（株）佐竹ファーム ※交渉中：（株）エレバ</p>
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

主な内容	初年度 【H31】	1年後 【H32】	2年後 【H33】	3年後 【H34】	4年後 【H35以降】
施設整備	→				
商品開発・販売促進	→	→	→	→	→
病害対策	→	→	→	→	→

項目	初年度 【H31】	1年後 【H32】	2年後 【H33】	3年後 【H34】	4年後 【H35以降】
売上高	20,000千円	25,000千円	31,000千円	35,000千円	40,000千円
【設定根拠】	【推計の考え方】 ※平成29年度実績：総売上額16,848千円 平成31年度：（選別→洗浄→加工）施設2名雇用 平成32年度：（選別→洗浄→加工）施設1名雇用、新商品販売1名雇用				

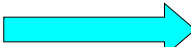


総事業費等	<p>総事業費 20,000千円（うち31年度 千円）</p> <p>（内訳 国： 県：10,000千円 市町村： その他：自己資金 10,000千円）</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県：産業振興推進総合支援事業費補助金 人的支援：</p> <p>その他：</p>
備考	

## 追加項目(案)

### 【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>地域生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発</p> <p>《四万十町》</p>	<p>生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を活かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により高知県産生姜の知名度向上を狙う。</p> <p>また、町内の生姜農家や企業等と連携し、生姜病害の病原菌早期発見方法を確立することにより生姜生産の安定化を目指す。結果として、地域の生姜農家の所得向上や雇用の創出を目指す。</p>	<p>・RELA GREEN VILLAGE(株)</p>	<p>アクションプランの取組開始：H31</p>		<p>◆施設整備</p> <p>◆商品開発・販売促進</p> <p>◆病害対策</p>



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
			 施設整備 冷蔵庫/洗浄場/加工場 整備		売上高 (H29:16,848千円)	20,000千円
			 商品開発・販売促進 ・漬物、粉末商品の開発 ・新商品の開発(上記以外) ・催事等での販促活動 ・体験プログラムの実施・磨き上げ			
			 病害対策 農家、企業等と連携した圃場管理方法の検証及び確立			

## 削除項目(案)

### 【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 美味しい！須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト 《須崎市》	美味しい旬の須崎の魚を広くPRすることで須崎の魚の消費を拡大し、水産業の振興に繋げる。	・須崎市 ・海の駅「須崎の魚」	アクションプランの取組開始:H21 ・販売促進活動(H21~29) ◆旬の魚まつりの開催や土佐のたきフェア、ほっとこうちランチバスポート、龍馬バスポート、高知家プレミアム旅行券へ参加することで、認知度の向上や販売促進につながった。	・ぐるーめ須崎の認知度向上	◆ぐるーめ須崎の利活用の促進          ◆魚の地産地消・外商の推進



削除

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					<b>売上高</b> (H26:8,027千円)	<b>10,000千円</b>	
ぐるーめ須崎の利活用の促進							
旬の地魚が食べられるイベントの開催							
須崎市で開催する各種イベント等との連携によるPRの促進							
パンフレット、臨時看板の作製やHPIによる周知							
遠足等たたき体験の誘致							
具体的な振興策の検討					<b>交流人口</b>	<b>10,000人</b>	
							
魚の地産地消・外商の推進							
地魚の販売促進							



削除

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
32 津野町地産地消・外商販売戦略 《津野町》	(有)津野町ふるさとセンターにおいて、機能向上した直販所販売システムの活用及び直販体制の拡充・改善を図るとともに、満天の星(株)における6次産業化等による高付加価値商品の積極的な地産地消・外商戦略を推進し、拠点ビジネスを安定させ、売上の向上と町内外への情報発信による交流人口の拡大及び農家所得の向上を目指す。	(有)津野町ふるさとセンター (株)満天の星 ・津野町	アクションプランの取組開始:H21 ・地産地消ビジネス(H21~23) ◆集荷所整備、町内直販拠点施設(道の駅等)の整備による町内流通網の拡充 ◆販売組織・機能の統一(手数料、清算方式等)による町内1直販所構想の実現 ◆生産性向上(ハウス、実証圃等)対策等による会員・販売額の増加  ・アンテナショップ、加工所の整備運営(H23~29) ◆H24.4.11津野町船戸に加工所、高知市南川添にアンテナショップを同時オープン。指定管理者である(株)満天の星が初年度2億円を超える売上を達成し、H25~28も売上は堅調に推移。 ◆ひろめ市場にスイーツ食堂マンテナノホシをオープン。さらに、フジグラン野市店にも出店し、認知度の向上が図られた。(H27~)  ・直販システムの高度化(H27) ◆既存直販システムのメール配信機能、返品管理機能の拡充による生産者への情報提供の向上が図られた。 ・直販所の生産出荷者に対し、売上額に応じて農業用堆肥を配布(H28)  ・十津店、瀬戸店の体制等の改善(H27) ◆瀬戸店を花卉類販売に特化し、十津店での販売力の強化が図られた。	(有)津野町ふるさとセンターの経営改善計画(体制、戦略等)の実行  ・アンテナショップ・加工場への食材供給や加工所商品の販売の安定化  ・野菜の供給量確保  ・老朽化した風の駅本店の改修  ・運搬車(2トントラック保冷車、55万km超)の更新  ・県外への販売展開	◆出荷量の安定的な確保  ◆高付加価値農産物の出荷  ◆直販所の拡充・改善  ◆生産者の高齢化対策  ◆満天の星による販売促進     ◆満天の星を拠点とした情報発信

修正前



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
32 津野町地産地消・外商販売戦略 《津野町》	(有)津野町ふるさとセンターにおいて、機能向上した直販所販売システムの活用及び直販体制の拡充・改善を図るとともに、満天の星(株)における6次産業化等による高付加価値商品の積極的な地産地消・外商戦略を推進し、拠点ビジネスを安定させ、売上の向上と町内外への情報発信による交流人口の拡大及び農家所得の向上を目指す。	(有)津野町ふるさとセンター (株)満天の星 (一財)天狗荘 ・津野町	アクションプランの取組開始:H21 ・地産地消ビジネス(H21~23) ◆集荷所整備、町内直販拠点施設(道の駅等)の整備による町内流通網の拡充 ◆販売組織・機能の統一(手数料、清算方式等)による町内1直販所構想の実現 ◆生産性向上(ハウス、実証圃等)対策等による会員・販売額の増加  ・アンテナショップ、加工所の整備運営(H23~29) ◆H24.4.11津野町船戸に加工所、高知市南川添にアンテナショップを同時オープン。指定管理者である(株)満天の星が初年度2億円を超える売上を達成し、H25~28も売上は堅調に推移。 ◆ひろめ市場にスイーツ食堂マンテナノホシをオープン。さらに、フジグラン野市店にも出店し、認知度の向上が図られた。(H27~)  ・直販システムの高度化(H27) ◆既存直販システムのメール配信機能、返品管理機能の拡充による生産者への情報提供の向上が図られた。 ・直販所の生産出荷者に対し、売上額に応じて農業用堆肥を配布(H28)  ・十津店、瀬戸店の体制等の改善(H27) ◆瀬戸店を花卉類販売に特化し、十津店での販売力の強化が図られた。  ・津野町まるごと総合商社化構想検討への着手(H30~)	(有)津野町ふるさとセンターの経営改善計画(体制、戦略等)の実行  ・アンテナショップ・加工場への食材供給や加工所商品の販売の安定化  ・野菜の供給量確保  ・老朽化した風の駅本店の改修  ・運搬車(2トントラック保冷車、55万km超)の更新  ・県外への販売展開  ・町内資源をフル活用した生産・商品作成・流通・加工販売体制の構築	◆出荷量の安定的な確保  ◆高付加価値農産物の出荷  ◆直販所の拡充・改善  ◆生産者の高齢化対策  ◆満天の星による販売促進     ◆満天の星を拠点とした情報発信    ◆津野町まるごと総合商社化

修正後

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
出荷量の安定的な確保					<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナショップ、加工場等対策(生産計画)</li> <li>・勉強会・研修会の開催</li> </ul>	直販所総販売額	1.62億円
						(H19:1.1億円) (H22:1.38億円) (H26:1.53億円)	
高付加価値農産物の出荷					<ul style="list-style-type: none"> <li>・津野町堆肥センターの堆肥使用促進</li> <li>・堆肥使用に対する支援策の構築</li> </ul>	直販所販売額(高知店3店舗)	1億円
						(H22:0.69億円) (H26:0.91億円)	
直販所の拡充・改善					<ul style="list-style-type: none"> <li>・風車の駅本店のリニューアル検討</li> <li>・運搬車の更新</li> </ul>	満天の星売上	2.27億円
						(H26:1.89億円)	
生産者の高齢化対策					<ul style="list-style-type: none"> <li>・集荷所整備</li> <li>・軒先集荷の検討・実施</li> </ul>		
満天の星による販売促進					<ul style="list-style-type: none"> <li>・「満天の星」ブランドによる県外への販路拡大</li> <li>・製造・販売・営業コストの見直しによる収益の向上</li> <li>・津野町産品の商品ラインナップの充実・多角化</li> <li>・イベント外販から即売へのシフトによる安定的な収益の確保</li> <li>・顧客ニーズに即したきめ細やかな販売戦略</li> <li>・ネット販売の拡大</li> </ul>		
県外出店に関する検討							
満天の星を拠点とした情報発信					<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品イメージによる県外への情報発信</li> </ul>		
奥四万十博関連イベントの拠点化							



第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
出荷量の安定的な確保					<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナショップ、加工場等対策(生産計画)</li> <li>・勉強会・研修会の開催</li> </ul>	直販所総販売額	1.62億円
						(H19:1.1億円) (H22:1.38億円) (H26:1.53億円)	
高付加価値農産物の出荷					<ul style="list-style-type: none"> <li>・津野町堆肥センターの堆肥使用促進</li> <li>・堆肥使用に対する支援策の構築</li> </ul>	直販所販売額(高知店3店舗)	1億円
						(H22:0.69億円) (H26:0.91億円)	
直販所の拡充・改善					<ul style="list-style-type: none"> <li>・風車の駅本店のリニューアル検討</li> <li>・運搬車の更新</li> </ul>	満天の星売上	2.27億円
						(H26:1.89億円)	
生産者の高齢化対策					<ul style="list-style-type: none"> <li>・集荷所整備</li> <li>・軒先集荷の検討・実施</li> </ul>		
満天の星による販売促進					<ul style="list-style-type: none"> <li>・「満天の星」ブランドによる県外への販路拡大</li> <li>・製造・販売・営業コストの見直しによる収益の向上</li> <li>・津野町産品の商品ラインナップの充実・多角化</li> <li>・イベント外販から即売へのシフトによる安定的な収益の確保</li> <li>・顧客ニーズに即したきめ細やかな販売戦略</li> <li>・ネット販売の拡大</li> </ul>		
県外出店に関する検討							
満天の星を拠点とした情報発信					<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品イメージによる県外への情報発信</li> </ul>		
奥四万十博関連イベントの拠点化							
					津野町まるごと総合商社化		
					商社化スキーム構築、事業計画策定、検証		
					商社設立、事業推進・進捗管理		

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
33 四万十町拠点ビジネス体制の強化 《四万十町》  修正前	地域資源を有効に活用するため、地産地消や加工品開発販売などを一体的に担うビジネス拠点組織を中心とした仕組みや体制を整備し、地域の活性化や所得の向上を目指す。	(株)あぐり窪川 ・四万十町	アクションプランの取組開始:H21 ・運営体制づくり(H21) ◆H21に行政、地域団体、生産者等による「四万十町拠点ビジネス事業運営協議会」を設置し、基本戦略である「四万十町スタイル」を取りまとめた。  ・生産流通システムの構築(H21～28) ◆バラエティに富んだ個性ある旧3町村(十和一大正一窪川)の産品を一元的に流通販売し、コスト削減を図るとともに新たな販路を開拓した。(県内12店舗、県外2店舗) ◆H24には、高知市内にアンテナショップ四万十の蔵を設置し、販売先を一元化。 ◆H25に産源アドバイザーを導入し、集客に繋がる店舗づくりに取り組んだ結果、H26の販売額、来客数の増加に繋がったが、増加率も低いためH27に店舗を閉店し、外商への戦略を練り直すこととした。 ◆JALまんと、JA高知はたの協力を得て、町内における集荷体制を確立した。  ・商品開発・販売(H22～23) 四万十町の地域資源を活用した加工品を開発(5商品)するとともに、3つの道の駅での連携商品(3井)を開発し、販売を開始	・事業主体の経営体質の向上 ・農産物等取扱量の確保 ・農産物取扱種類の増加	◆地域食材、加工品の総合販売ビジネス   ◆町内流通体制の整備及び強化  ◆外商戦略   ◆運営体制の強化



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
33 四万十町拠点ビジネス体制の強化 《四万十町》  修正後	地域資源を有効に活用するため、地産地消や加工品開発販売などを一体的に担うビジネス拠点組織を中心とした仕組みや体制を整備し、地域の活性化や所得の向上を目指す。	(株)あぐり窪川 ・四万十町 (株)ハマヤ	アクションプランの取組開始:H21 ・運営体制づくり(H21) ◆H21に行政、地域団体、生産者等による「四万十町拠点ビジネス事業運営協議会」を設置し、基本戦略である「四万十町スタイル」を取りまとめた。  ・生産流通システムの構築(H21～28) ◆バラエティに富んだ個性ある旧3町村(十和一大正一窪川)の産品を一元的に流通販売し、コスト削減を図るとともに新たな販路を開拓した。(県内12店舗、県外2店舗) ◆H24には、高知市内にアンテナショップ四万十の蔵を設置し、販売先を一元化。 ◆H25に産源アドバイザーを導入し、集客に繋がる店舗づくりに取り組んだ結果、H26の販売額、来客数の増加に繋がったが、増加率も低いためH27に店舗を閉店し、外商への戦略を練り直すこととした。 ◆JALまんと、JA高知はたの協力を得て、町内における集荷体制を確立した。  ・商品開発・販売(H22～23) 四万十町の地域資源を活用した加工品を開発(5商品)するとともに、3つの道の駅での連携商品(3井)を開発し、販売を開始  ・四万十町の外商戦略(H30～) ◆四万十町では地産外商室を設置し外商を推進。 ◆四万十町東京オフィスの開設(拠点) ◆町内外での流通拠点の整備、拠点となる企業との連携の検討。	・事業主体の経営体質の向上 ・農産物等取扱量の確保 ・農産物取扱種類の増加 ・町内流通拠点の整備	◆地域食材、加工品の総合販売ビジネス   ◆町内流通体制の整備及び強化  ◆外商戦略   ◆運営体制の強化

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
地域食材、加工品の総合販売ビジネス					→	あぐり窪川販売額 (H22:2.9億円) (H26:2.8億円)	4.2億円
四万十町スタイルに基づいた商品の磨き上げ、生産販売、PR							
フリーマーケットの充実、農作物取扱量の確保							
加工場を活用した新たな商品開発、販売、PR							
町内流通体制の整備及び強化					→		
町内直販所への流通体制の整備	出荷者・集荷場所・集荷物量・集荷物の種類の増加を行うことによる、直販所の充実						
外商戦略					→		
外商拠点整備に向けた検討 ・市場調査 ・アドバイザーの招へい		外商拠点の開設					
産業人材の育成							
地域産品のPR活動(イベント出店、ふるさと納税等)							
運営体制の強化					→		
事業主体の検討		事業主体へ業務の委託、運営					



第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
地域食材、加工品の総合販売ビジネス					→	あぐり窪川販売額 (H22:2.9億円) (H26:2.8億円)	4.2億円
四万十町スタイルに基づいた商品の磨き上げ、生産販売、PR							
フリーマーケットの充実、農作物取扱量の確保							
加工場を活用した新たな商品開発、販売、PR							
町内流通体制の整備及び強化					→		
町内直販所への流通体制の整備	出荷者・集荷場所・集荷物量・集荷物の種類の増加を行うことによる、直販所の充実						
外商戦略					→		
外商拠点整備に向けた検討 ・市場調査 ・アドバイザーの招へい		四万十町東京オフィスの開設と外商体制の整備					
産業人材の育成							
地域産品のPR活動(イベント出店、ふるさと納税等)							
運営体制の強化					→		
事業主体の検討		事業主体へ業務の委託、運営					
		町内外への流通体制の整備					
		町内外流通拠点の整備					

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
34 高幡地域における広域観光の推進 《高幡地域全域》	高幡地域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、奥四万十博で培われたノウハウを活かし、地域の商品を県内外に情報発信するとともに、旅行会社への積極的な営業活動を展開することで誘客を促進し、広域への経済効果を波及させていく。	・奥四万十観光協 ・須崎市 ・中土佐町 ・徳原町 ・津野町 ・四万十町	アクションプランの取組開始:H26 ・観光情報の管理及び情報発信(H26~29) ・H26.10月に観光HPが完成し、情報等の集約、集計がスムーズに行える体制が整った。 ・商品及び観光資源の営業販売(H26~27) ・県外旅行会社営業(H26:20回)、PRIにより旅行会社のパンフレットに掲載された。 ・2016奥四万十博開催に向けた取組(H25~27) ・高幡地域の広域観光組織として「高幡広域観光推進本部会」を設立(H25) ・高幡広域観光推進本部会を開催し、地域博覧会開催が決定(H25) ・地域博覧会を推進していく組織として「奥四万十博推進協議会」を設立し、実施態勢が整った。(H26) ・奥四万十博実施計画を策定(H27) ・2016奥四万十博の開催(H28) ・2016奥四万十博オープニングイベントの実施(4/10)来場者数:25,000人 ・インフォメーションセンターを「道の駅かわうその里すさき」に設置し、観光案内を実施することで、高幡広域全域へ誘客する体制が整った。 ・県内、岡山、愛媛、香川などのテレビ局でのTVCMの広告や、ラジオや新聞などメディアを活用した広報を数多く実施し、県内外での奥四万十博PRに繋がった。 ・首都圏や関西の旅行会社への営業や、観光キャラバンへの参加することで、観光商品の造成・販売に繋がった。 ・ミッション8スタンプラリーやレンタカープランなど、様々なキャンペーン企画を実施することにより、エリア内の周遊促進、宿泊増加に繋がった。	・構成各市町における体験プログラム等の商品化力の向上 ・奥四万十博終了後も継続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化	◆観光情報の発信  ◆商品の造成・磨き上げ・セールス  ◆2016奥四万十博開催及び博覧会終了後の広域観光組織の機能強化

修正前



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
34 高幡地域における広域観光の推進 《高幡地域全域》	高幡地域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、奥四万十博で培われたノウハウを活かし、地域の商品を県内外に情報発信するとともに、旅行会社への積極的な営業活動を展開することで誘客を促進し、広域への経済効果を波及させていく。	・奥四万十観光協 ・須崎市 ・中土佐町 ・徳原町 ・津野町 ・四万十町	アクションプランの取組開始:H26 ・観光情報の管理及び情報発信(H26~) ・H26.10月に観光HPが完成し、情報等の集約、集計がスムーズに行える体制が整った。 ・商品及び観光資源の営業販売(H26~) ・県外旅行会社への営業により旅行会社のパンフレットに掲載された。 ・2016奥四万十博開催に向けた取組(H25~27) ・高幡地域の広域観光組織として「高幡広域観光推進本部会」を設立(H25) ・高幡広域観光推進本部会を開催し、地域博覧会開催が決定(H25) ・地域博覧会を推進していく組織として「奥四万十博推進協議会」を設立し、実施態勢が整った。(H26) ・奥四万十博実施計画を策定(H27) ・2016奥四万十博の開催(H28) ・2016奥四万十博オープニングイベントの実施(4/10)来場者数:25,000人 ・インフォメーションセンターを「道の駅かわうその里すさき」に設置し、観光案内を実施することで、高幡広域全域へ誘客する体制が整った。 ・県内、岡山、愛媛、香川などのテレビ局でのTVCMの広告や、ラジオや新聞などメディアを活用した広報を数多く実施し、県内外での奥四万十博PRに繋がった。 ・首都圏や関西の旅行会社への営業や、観光キャラバンへの参加することで、観光商品の造成・販売に繋がった。 ・ミッション8スタンプラリーやレンタカープランなど、様々なキャンペーン企画を実施することにより、エリア内の周遊促進、宿泊増加に繋がった。 ・奥四万十観光協会の設立(H29) ・奥四万十広域観光振興中期計画の策定(H30)	・構成各市町における体験プログラム等の商品化力の向上 ・奥四万十博終了後も継続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化	◆観光情報の発信  ◆商品の造成・磨き上げ・セールス  ◆2016奥四万十博開催及び博覧会終了後の広域観光組織の機能強化

修正後



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
観光情報の発信					→	主要観光施設入込 客数 (H26:1,954,206人)	2,459,000人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5市町及び観光関係団体からの観光情報の収集、管理</li> <li>・観光素材の写真や関係情報のデータベース化</li> <li>・Webやパンフレット、メディアを活用した広域観光情報の発信</li> </ul>							
商品の造成・磨き上げ・セールス					→	宿泊者数 (H26:40,925人)	51,300人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品及び周遊プランの造成・磨き上げ</li> <li>・観光資源や商品のエージェントへのセールス</li> </ul>							
2016奥四万十博開催及び博覧会終了後の広域観光組織の機能強化					→		
博覧会の開催	博覧会終了後も持続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化						



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
観光情報の発信					→	主要観光施設入込 客数 (H26:1,954,206人)	2,459,000人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5市町及び観光関係団体からの観光情報の収集、管理</li> <li>・観光素材の写真や関係情報のデータベース化</li> <li>・Webやパンフレット、メディアを活用した広域観光情報の発信</li> </ul>							
商品の造成・磨き上げ・セールス					→	宿泊者数 (H26:40,925人)	51,300人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品及び周遊プランの造成・磨き上げ</li> <li>・観光資源や商品のエージェントへのセールス</li> </ul>							
2016奥四万十博開催及び博覧会終了後の広域観光組織の機能強化					→		
博覧会の開催	博覧会終了後も持続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化						

修正項目(案)





【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>36 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備</p> <p>《須崎市》</p> <p>※地域産業クラスター関連(宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト)</p> <p style="text-align: center;">修正前</p>	<p>須崎市への教育旅行や団体旅行を増やすため、地域資源を活かした体験メニューの充実、民泊受入世帯の拡大を図る。</p>	<p>・須崎市観光協会 ・NPOすさきスポーツクラブ</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・教育旅行の誘致事業(H21~29) ◆体験型観光パンフの作成、旅行会社へのセールス、インストラクター研修などを実施し、関西方面からの中学校修学旅行が定着した。</p> <p>・一般団体の誘致事業(体験型観光)(H21~29) ◆ドラゴンカヌー・鯉タキづくり体験などを主体に受入数を確保した。 H24:703人 H25:473人 H26:1,282人 H27:1,697人 H28:1,816人 H29:1,099人(11月末)</p> <p>・民泊の推進(H21~29) ◆民泊受入世帯件数が目標の100世帯を超え127世帯(H27)、民泊受入回数も増加している。 ◆関西の旅行代理店を中心に営業を行い、民泊受入について、H26に2校、H27に4校、H28は5校、H29は5校受入した。</p> <p>・体験プログラムの磨き上げ ・観光漁業センター浮桟橋の整備(H29)</p>	<p>・教育旅行民泊受入世帯の確保 ・プロモーション活動 ・体験プログラムの増及びインストラクター養成 ・営業スタッフの確保と経営体制の強化</p>	<p>◆観光協会の体制づくり</p> <p>◆民泊研修会の開催</p> <p>◆体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成研修会の開催</p> <p>◆県観光CV協会、他地域のコーディネーター組織と合同の団体・教育旅行誘致</p>








【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>36 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備</p> <p>《須崎市》</p> <p>※地域産業クラスター関連(宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト)</p> <p style="text-align: center;">修正後</p>	<p>須崎市への教育旅行や団体旅行を増やすため、地域資源を活かした体験メニューの充実、民泊受入世帯の拡大を図る。</p>	<p>・須崎市観光協会 ・NPOすさきスポーツクラブ</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・教育旅行の誘致事業(H21~) ◆体験型観光パンフの作成、旅行会社へのセールス、インストラクター研修などを実施し、関西方面からの中学校修学旅行が定着した。</p> <p>・一般団体の誘致事業(体験型観光)(H21~) ◆ドラゴンカヌー・鯉タキづくり体験などを主体に受入数を確保した。 H27:1,697人 →H30:3,713人(11月末)</p> <p>・民泊の推進(H21~) ◆民泊受入世帯件数が目標の100世帯を超え127世帯(H27)、民泊受入回数も増加している。 ◆関西の旅行代理店を中心に営業を行い、民泊受入について、毎年増加している。</p> <p>・体験プログラムの磨き上げ ・観光漁業センター浮桟橋の整備(H29)</p>	<p>・教育旅行民泊受入世帯の確保 ・プロモーション活動 ・体験プログラムの増及びインストラクター養成 ・営業スタッフの確保と経営体制の強化</p>	<p>◆観光協会の体制づくり</p> <p>◆民泊研修会の開催</p> <p>◆体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成研修会の開催</p> <p>◆県観光CV協会、他地域のコーディネーター組織と合同の団体・教育旅行誘致</p>

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
 観光協会の体制づくり ・新体制での受入体制づくり ・広域、関係機関との連携による魅力の向上					民泊受入世帯数 (H22:0世帯) (H26:97世帯)	200世帯
 民泊研修会の開催 ・地域の活動者、行政と連携による研修会を開催 ・民泊受入れ世帯、地域の安定的な確保による教育旅行誘致					教育旅行受入人数 (H22:3,228人) (H26:2,412人)	5,000人
 体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成研修会の開催 ・地域ならではの体験プログラム造成、磨き上げ ・インストラクター研修会の実施						
 県観光CV協会、他地域のコーディネート組織と合同の団体・教育旅行誘致 ・独自誘致活動に加えて、県CV協会、先進組織・隣接地域と連携した誘致活動 ・エージェン트가企画、利用しやすい周遊コース、パンフなどツールの作成						



第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
 観光協会の体制づくり ・新体制での受入体制づくり ・広域、関係機関との連携による魅力の向上			 観光協会の体制づくり 観光協会の組織再編		民泊受入世帯数 (H22:0世帯) (H26:97世帯)	200世帯
 民泊研修会の開催 ・地域の活動者、行政と連携による研修会を開催 ・民泊受入れ世帯、地域の安定的な確保による教育旅行誘致					教育旅行受入人数 (H22:3,228人) (H26:2,412人)	5,000人
 体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成研修会の開催 ・地域ならではの体験プログラム造成、磨き上げ ・インストラクター研修会の実施						
 県観光CV協会、他地域のコーディネート組織と合同の団体・教育旅行誘致 ・独自誘致活動に加えて、県CV協会、先進組織・隣接地域と連携した誘致活動 ・エージェン트가企画、利用しやすい周遊コース、パンフなどツールの作成						

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
38 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 《梶原町》	「龍馬脱藩の郷」としての取組を継続しつつ、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光、住民主体のおもてなし・受入体制や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取組と併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動を行い、体験型・滞在型観光を推進する	・梶原町商工会 ・梶原町 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会	アクションプランの取組開始:H21 ・誘客、受入・おもてなし体制(H21～29) ◆地域(住民)組織「ゆすはら社中」による町内が一体となった龍馬伝・龍馬博、それに続くふるさと博を活かした誘客、受入・おもてなしが行えた。 ◆2016奥四万十博 に向け、梶原町奥四万十博本部会を設置、素材の洗い出しを行い、体験メニューを造成した。  ・ハード整備及び活用(H21～26) ◆「ゆすはら維新の道社中」、まちの駅マルシェ・ユスハラ、雲の上のギャラリーの整備などが行われ、これらを活かした県外エージェンツへの誘客活動、県内ホテルとの連携などにより多くの観光客が訪れ「龍馬脱藩の郷」としてのイメージの定着が図られた。 ◆H25年度には、千百年物語りと題して町立歴史民俗資料館をリニューアルし、受入体制の充実が図られた。 ・千百年物語り2階の資料展示コーナーをリニューアル(H29)  ・森林セラピー推進による地域活性化(H21～26) ◆松原地区や宮野々地区での体制づくりや整備が進むことで、県内外からの乗客により、地域活性化が図られた。	「龍馬脱藩の郷」を継続活用した誘客活動の強化  ・環境のまち、癒しのまち「ゆすはら」のアピールによる、一般企業のCSR研修、スポーツ合宿などの誘致活動強化  ・滞在型の森林セラピーの基盤整備  ・道の駅ゆすはらの再整備による雲の上のホテル等の改修	◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実  ◆誘客活動  ◆森林セラピーの受入体制の充実  ◆受入基盤の整備



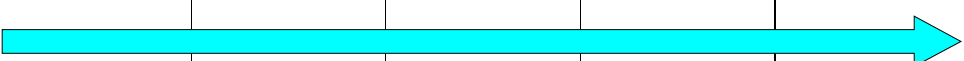
修正前



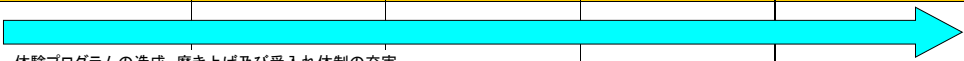

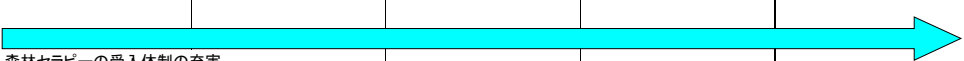
【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
38 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 《梶原町》	「龍馬脱藩の郷」としての取組を継続しつつ、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光、住民主体のおもてなし・受入体制や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取組と併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動を行い、体験型・滞在型観光を推進する	・梶原町商工会 ・梶原町 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会	アクションプランの取組開始:H21 ・誘客、受入・おもてなし体制(H21～29) ◆地域(住民)組織「ゆすはら社中」による町内が一体となった龍馬伝・龍馬博、それに続くふるさと博を活かした誘客、受入・おもてなしが行えた。 ◆2016奥四万十博 に向け、梶原町奥四万十博本部会を設置、素材の洗い出しを行い、体験メニューを造成した。  ・ハード整備及び活用(H21～26) ◆「ゆすはら維新の道社中」、まちの駅マルシェ・ユスハラ、雲の上のギャラリーの整備などが行われ、これらを活かした県外エージェンツへの誘客活動、県内ホテルとの連携などにより多くの観光客が訪れ「龍馬脱藩の郷」としてのイメージの定着が図られた。 ◆H25年度には、千百年物語りと題して町立歴史民俗資料館をリニューアルし、受入体制の充実が図られた。 ・千百年物語り2階の資料展示コーナーをリニューアル(H29)  ・森林セラピー推進による地域活性化(H21～26) ◆松原地区や宮野々地区での体制づくりや整備が進むことで、県内外からの乗客により、地域活性化が図られた。	「龍馬脱藩の郷」を継続活用した誘客活動の強化  ・環境のまち、癒しのまち「ゆすはら」のアピールによる、一般企業のCSR研修、スポーツ合宿などの誘致活動強化  ・滞在型の森林セラピーの基盤整備  ・道の駅ゆすはらの再整備による雲の上のホテル等の改修	◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実  ◆誘客活動  ◆森林セラピーの受入体制の充実  ◆受入基盤の整備

修正後

第3期計画					H32以降	指標及び目標							
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)							
体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入れ体制の充実 ・地域資源を活かした体験プログラムの造成、磨き上げ ・2016奥四万十博を踏まえた地域住民による受入体制の充実						<b>宿泊者数</b> (H22:6,485人) (H26:6,841人)	<b>8,265人</b>						
誘客活動 ・「環境の町」「龍馬脱藩の郷」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールス ・高知市内等のホテル、旅館との連携による誘客 ・メディア等を活用した情報発信の強化									<b>施設利用者</b> (H22:82,299人) (H26:82,582人)	<b>97,500人</b>			
森林セラピーの受入体制の充実 ・医療保険施設管理者と連携したセラピー基地・ロードでの受入体制の充実												<b>8,265人</b>	<b>97,500人</b>
受入基盤の整備 ・重点道の駅として選定されたセラピー基地である太郎川公園の新たな整備 ・セラピーロード等の魅力を向上させるための整備													



第3期計画					H32以降	指標及び目標							
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)							
体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入れ体制の充実 ・地域資源を活かした体験プログラムの造成、磨き上げ ・2016奥四万十博を踏まえた地域住民による受入体制の充実 津野山神楽体験メニュー造成						<b>宿泊者数</b> (H22:6,485人) (H26:6,841人)	<b>8,265人</b>						
誘客活動 ・「環境の町」「龍馬脱藩の郷」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールス ・高知市内等のホテル、旅館との連携による誘客 ・メディア等を活用した情報発信の強化 「眼研吾」を核とした観光資源の造成・磨き上げ									<b>施設利用者</b> (H22:82,299人) (H26:82,582人)	<b>97,500人</b>			
森林セラピーの受入体制の充実 ・医療保険施設管理者と連携したセラピー基地・ロードでの受入体制の充実												<b>8,265人</b>	<b>97,500人</b>
受入基盤の整備 ・重点道の駅として選定されたセラピー基地である太郎川公園の新たな整備 ・セラピーロード等の魅力を向上させるための整備 ゆすはら座の改修													

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
41 四万十町観光交流促進事業 《四万十町》	高速道路の延伸や海洋堂ホビー館四万十の整備を踏まえ、四万十町の山・川・海の豊かな地域資源がつけあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。	・四万十町 ・(一社)四万十町観光協会 ・四万十町商工会等	アクションプラン取組開始:H23 ◆受入体制の整備・充実(H23~29) ◆観光ガイドの養成:21人(H23) ◆四万十あちこちたんね隊の育成強化について、月1回の定例会を開催し、新コースの設定や既存コースの磨き上げができた。 ◆H24から四万十の食をテーマに「四万十パークどんぶり街道」の取組を開始し、町内全域の店舗でスタンプラリーを行うなど町内の誘客につなげている。 ◆H26にヤイロチョウネイチャーセンターがオープンし、観光客の誘客に向けた新たなコンテンツとして活用できることとなった。 ◆H27に打井川のバイパス開通によりホビー館まで大型バスが乗り入れ可能となった。 ◆H28に奥四万十博関連イベントや体験プログラムを新たに造成し、観光客誘客に繋がった。  ◆観光資源の磨き上げ(H24~29) ◆「興津の家」の改修を実施し、スキューバダイビングやマリンスポーツの体験メニューの充実が繋がった。 ◆ツアーリバービューライドの開催により、地域連携が図られサイクリングコースとしての認知度が向上した。  ◆案内機能の強化(H23~29) ◆奥四万十博HPへの情報掲載による県内外への広報(H28) ◆町内3つの道の駅への観光情報案内電光掲示板の設置や、ひろめ市場への特大看板の設置により、観光案内機能が充実した。 ◆主要施設5箇所(興津青少年旅行村、松葉川温泉、四万十町ホビー館、ウエル花夢、ふるさと交流センター)への看板の設置により、観光客の町内周遊に繋がった。 ◆観光協会HPをリニューアルするとともに、地域ならではの食、川、瀬、泊、祭 など各りフレットの作成により、案内機能が充実した。	◆メディア、パンフ、HP等を活用した観光・イベント情報、周遊ルートの提供及び3つの道の駅が連携した情報発信の強化  ◆観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につながるための仕掛けや体制の強化  ◆観光資源の造成・磨き上げ  ◆情報発信力の強化	
修正前					



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
41 四万十町観光交流促進事業 《四万十町》	高速道路の延伸や海洋堂ホビー館四万十の整備を踏まえ、四万十町の山・川・海の豊かな地域資源がつけあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。	・四万十町 ・(一社)四万十町観光協会 ・四万十町商工会等	アクションプラン取組開始:H23 ◆受入体制の整備・充実(H23~30) ◆観光ガイドの養成:21人(H23) ◆四万十あちこちたんね隊の育成強化について、月1回の定例会を開催し、新コースの設定や既存コースの磨き上げができた。 ◆H24から四万十の食をテーマに「四万十パークどんぶり街道」の取組を開始し、町内全域の店舗でスタンプラリーを行うなど町内の誘客につなげている。 ◆H26にヤイロチョウネイチャーセンターがオープンし、観光客の誘客に向けた新たなコンテンツとして活用できることとなった。 ◆H27に打井川のバイパス開通によりホビー館まで大型バスが乗り入れ可能となった。 ◆H28に奥四万十博関連イベントや体験プログラムを新たに造成し、観光客誘客に繋がった。  ◆観光資源の磨き上げ(H24~29) ◆「興津の家」の改修を実施し、スキューバダイビングやマリンスポーツの体験メニューの充実が繋がった。 ◆ツアーリバービューライドの開催により、地域連携が図られサイクリングコースとしての認知度が向上した。  ◆案内機能の強化(H23~29) ◆奥四万十博HPへの情報掲載による県内外への広報(H28) ◆町内3つの道の駅への観光情報案内電光掲示板の設置や、ひろめ市場への特大看板の設置により、観光案内機能が充実した。 ◆主要施設5箇所(興津青少年旅行村、松葉川温泉、四万十町ホビー館、ウエル花夢、ふるさと交流センター)への看板の設置により、観光客の町内周遊に繋がった。 ◆観光協会HPをリニューアルするとともに、地域ならではの食、川、瀬、泊、祭 など各りフレットの作成により、案内機能が充実した。	◆メディア、パンフ、HP等を活用した観光・イベント情報、周遊ルートの提供及び3つの道の駅が連携した情報発信の強化  ◆観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につながるための仕掛けや体制の強化  ◆観光資源の造成・磨き上げ  ◆情報発信力の強化	
修正後					

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
受入体制の充実・整備					→	施設等利用者数 (H22:80万人) (H26:67万人)	90万人
<ul style="list-style-type: none"> <li>観光ガイド(四万十あちこちたんね隊)の育成強化とよりよいサービスの提供</li> <li>四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを活かした周遊ルートの作成</li> <li>サイクリング愛好者の受入体制の充実</li> <li>庁舎跡地活用の検討</li> <li>旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション</li> </ul>							
観光資源の造成・磨き上げ					→		
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然や文化、食を活かした体験プログラムの造成、磨き上げ</li> <li>体験プログラム内容の充実</li> </ul>							
谷干城を中心とした歴史資源の磨き上げ					→		
情報発信力の強化					→		
<ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内板設置等によるPR</li> <li>道の駅等拠点との連携による情報発信</li> <li>四季折々の旬な観光情報の発信</li> </ul>							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
受入体制の充実・整備					→	施設等利用者数 (H22:80万人) (H26:67万人)	90万人
<ul style="list-style-type: none"> <li>観光ガイド(四万十あちこちたんね隊)の育成強化とよりよいサービスの提供</li> <li>四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを活かした周遊ルートの作成</li> <li>サイクリング愛好者の受入体制の充実</li> <li>庁舎跡地活用の検討</li> <li>旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション</li> </ul>							
観光資源の造成・磨き上げ					→		
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然や文化、食を活かした体験プログラムの造成、磨き上げ</li> <li>体験プログラム内容の充実</li> </ul>							
谷干城を中心とした歴史資源の磨き上げ					→		
					ジップライン施設整備		
							整備した施設の運営
情報発信力の強化					→		
<ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内板設置等によるPR</li> <li>道の駅等拠点との連携による情報発信</li> <li>四季折々の旬な観光情報の発信</li> </ul>							